

「ハガイ書」は預言書の中でも 短い書ですが
旧約聖書の物語の中で非常に重要な 意味を持っています
旧約時代の預言者たちは何世紀にもわたって
偶像礼拝と不正によって 神との契約を破ったイスラエルの民を糾弾してきました そして神はバビロン帝国を遣わしてエルサレムとその神殿を滅ぼし民を捕囚にするだろうと警告していました それは紀元前 587 年に現実のこととなりましたが 話はそれで終わりではなかったのです 預言者たちはまだ希望があると信じていました 神がいつの日か生まれ変わったイスラエルの残りの民を 神と共に住む新しいエルサレムに連れ戻してくださるという希望 です
このハガイ書が書かれたのは紀元前 520 年で捕囚から約 70 年後バビロン帝国 が滅んだすぐあとで支配者がペルシャに変わった頃 でした
エルサレムはまださびれたままで したがそこに帰りたいと願うイスラエル 人にはペルシャは帰還を許しました そこで大祭司ヨシュアとダビデの子孫である ゼルバベルの指導のもと捕囚されていた一団はエルサレムに戻り 街を再建し生活を立て直し始めたのです このことはエズラ記 1 章から 6 章に書かれています 希望に満ち将来は明るいものと思えました しかしハガイはそうは思っていませんでした ハガイ書は 4 つのセクションから成りその内容は ハガイが 4 か月にわたってエルサレムの民に述べた メッセージの要約です
彼はまず優先順位を間違えている 人々を非難します 彼らはエルサレムに戻ってきました が自分たちの贅沢な家を建てることに 時間と資源のすべてを費やしていたのです その間神殿は 70 年前に破壊されたままの状態に ほったらかしにされていました
ハガイはあなたたちの家は神への 忠誠よりもっと大事なもののなのかと問い かけ
神殿を打ち捨てておく行為は 先祖たちが契約を破った罪にも等しいと言います そのため民は不作と飢饉と干ばつに苦しめられました ハガイはこのことを

申命記にある契約に反した場合 の呪いの言葉を引用して述べて
いますこの非難のことばに続いて 民が応答した様子が記されています
このことはエズラ記 5 章にも書かれて います
それによるとゼルバベルヨシュア 残された民たちは
ハガイの言葉を聞いて奮い立ち 神殿の再建に取り掛かりました
次のセクションでハガイはそれから 一か月後に
人々の打ち砕かれていた期待について 言及しています
彼らが再建していた神殿はまるで さえなかったのです
500 年前にソロモンが同じ場所に 建てた
荘厳な神殿とは比べ物になりませんでした そのためこの事業をやり遂げよう
という士気が 下がってしまっていたのです
そこでハガイは彼らに 来るべき神の王国とこの神殿について
の 大いなる約束を思い出させました
神がエルサレムから世界を贖い すべての国々がそこに集って神
の王国に加わり 平和の時代が訪れるという先の時代
の預言者 特にイザヤとミカの言葉をここで
引用しています このようにこの神殿は神の計画
の中で大切な役割を果たすのです だから今の状況に落胆せずに
希望をもって働くようにとハガイ は彼らを励まします
3 つめのセクションでハガイはそれから 2 か月後に
契約に誠実であるようにという 呼びかけをしました
彼は祭司たちを相手に レビ記にあるようなきよさを保
つための律法について問答をしました もし誰かが死体に触れて汚れた
状態 つまり死がついている状態になった
場合 その人が触った食べ物も汚れる
かとハガイが聞くと 祭司たちはレビ記を知っています
から汚れると答えました するとハガイはこれをたとえに
用いてこう言いました イスラエルもそれと同じことで
あり 彼らが再建している神殿もまた
然りだ もし彼らがへりくだって不正から
離れ 神への無関心を改めないなら彼らが
着手するものはすべて この新しい神殿も含めて汚れている
彼らの神殿再建の努力が 神の王国と祝福をもたらす結果
につながるためには 彼らの真の悔い改めと契約への
誠実さが必要不可欠なのです つまりイスラエルの未来はある
意味で彼ら次第であり 神はご自分の民が誠実な者になる

のを待っているのです ハガイがここで捕囚になった世代に語っていることは 約束の地に入る前に荒野をさまよった世代に向けて モーセが語ったことに似ています つまり主に従うなら祝福と繁栄 があり 不誠実なら破滅に至るとのこと です この書は神の王国に関する将来 の希望を短くまとめて終わっています 神はご自身の栄光に満ちた王国の真ん中に新しいエルサレムを 据えてそこから国々にはびこる悪と対決して勝利します ここで出エジプト記でファラオの軍隊の滅ぼしたことを 例として挙げています 神は約束を果たしダビデの子孫 の中から王を立てます そしてハガイの時代においては それがゼルバベルでした このように明るい未来の選択肢 を残したままハガイ書は終わります ハガイの時代の民は神に誠実 になれるでしょうか 彼らは約束の成就を見ることが できるでしょうか ゼルバベルはどうでしょう 彼こそが誠実なメシアなる王なの でしょうか それを知るためには預言書の最後の二書 ゼカリヤ書とマラキ書を読まなければなりません ハガイ書には すべての世代の神の民に対する 非常に重要なメッセージがあります それは私たちの選択は重要である こと そして神の民の誠実さと従順さが 神がこの世界に対する目的をどのように成し遂げられるかを左右 するということです この驚くべき事実は私たちにへ りくだらせ 神の王国の到来を待ち望む行動 へと駆り立てます これがハガイ書です

500字要約

ハガイ書は旧約聖書の重要な預言書で、捕囚後のイスラエルに対する神のメッセージを伝えます。エルサレムと神殿の再建が焦点で、希望と契約の重要性が強調されます。ハガイは民が家の建設に力を注ぎながら神殿を放置し、不作と苦しみに見舞われていることに注意を促します。神殿の再建は神の計画において大きな意味を持ち、真の悔い改めと契約への誠実さが未来を決定すると教えます。ハガイ書は神の栄光に満ちた王国の到来と悪との対決を予示し、神の民の選択がその成就に影響を与えることを強調します。